

カブトムシの大会

一宮南部小・2 近田 ねね

わたしは、お母さんの友だちの山本さんにカブトムシのすもう大会があることを教えてもらい、出たいと思いました。大会には、おすのカブトムシをもって出場したかったので、お父さんといっしょに、夜の赤つか山公園へ、カブトムシをつかまえに出かけました。しかし、カブトムシはなかなか見つかりませんでした。三回行って、やっと一ぴきつかまえることができました。

妹もカブトムシがほしいと言うので、もう一ぴきさがすことにしました。そこへ、山本さんが家でつかまえたカブトムシをもってきてくれて、もらえることになりました。

カブトムシのえさは、バナナとゼリーです。お母さんがバナナを切って、わたしと妹が虫かごに入れました。わたしが、「いっぱい食べてね」。

と言うと、カブトムシはバナナをいっぱい食べてくれました。バナナのかわがおさらになって、上手に食べていました。おいしそうに見えたのか、妹がのこったバナナを食べてしまったので、わたしとお母さんはわらいました。

いよいよ、すもう大会の日がきました。山本さんにもらった大きい方のカブトムシをわたしが、小さい方を妹がもって、赤つか山公園のカブトムシの大会に出ました。大会には、三十人ぐらいの友だちが来ていました。わたしたちは、はじめてでルールがわ

かりませんでした。しかし、カブトムシのたたかいが楽しみで、わくわくしてじゅんばんをまっています。会場には、土ひょうがたくさんあって、わたしと妹は、ちがう土ひょうで、同時にしあいをするようになりました。

しょうぶは、先に三回かった方がかちとなります。一回せんで、妹のカブトムシはまけてしまいました。わたしのカブトムシはかちました。つぎのたたかいでも、またかちました。このままかてばよこづなになれると思いましたが、三回せんで、二回つづけてまけてしまい、もうだめかと思いましたが、しかし、その後つづけて三回れんぞくでかち、けっしょうにすすむことができました。

けっしょうせんで、わたしのカブトムシも、あい手のカブトムシもつかれてしまい、すもうをしようとしませんでした。

そこで、すもうではなくて、木のぼりきょうそうをすることにしました。かかりの人が、

「木の下の方をたたくといいよ。」

と教えてくれました。わたしは、木の下の丸いところをコンコンたたいて、

「がんばれ。がんばれ。」

とおうえんしました。すると、わたしのカブトムシは、すいすい上にのぼって行きました。ほんたいに、あい手のカブトムシは、下におりて行ってしまいました。わたしのカブトムシは、そのままゴールをしてゆうしようして、よこづなになることができました。大切にそだてたカブトムシがよこづなになって、とてもうれしかったです。

その後、お母さんにおねがいをして、大きな虫かごを買ってもら

いました。めすのカブトムシをもらい、いっしょに入れてあげました。めすは、ゼリーが大すきで、一日で一こ食べてしまいます。よこづなの赤ちゃんをうんでほしいので、これからも大切にそだてていきたいです。